



Raffaello ラファエロ

3/6 記

国立西洋美術館(上野) 2013年3月2日～6月2日

Raffaello Sanzio ラッファエッロ・サンツィオ (1483.4.6～1520.4.6) はウルビーノ公国に生まれたイタリア・ルネサンスを代表する画家で、この展覧会は彼の自画像から始まります。詩人で宮廷画家の父は彼が子供の頃に亡くなりましたが、19歳にしてすでに「親方」と呼ばれた彼の才能の育成は、工房の弟子たちによって引き継がれたと言われています。

板・キャンバス上の油彩画は精密な下絵から描かれ、版画は細部の線の方向性にもこだわりました。

フィレンツェではミケランジェロとレオナルド・ダ・ヴィンチに影響を受け、モナ・リザの構図を模した絵もありました。彼は弟子たちの個々の才能に合わせた指導をしながらも、その優れたところは吸収するというほど美の探求に情熱を燃やしました。

有名な「大公の聖母」は長方形ですが、デッサン時点では楕円形も検討された跡がありました。またこの絵のバックには本来景色が描いてありましたが、後年黒一色に塗られてしまいました。彼は「友人のいる自画像」を描いた翌年37歳の若さで熱病によりこの世を去りました。その友人は誰かわかりません。



彼の技術は引き継がれても、彼の完璧な「優美」は誰にも真似できない。作品に引き込まれた感情はまさに「恋」でした。その優美をぜひご堪能下さい。